

革新の遺伝子

京都企業の挑戦

● 49 ●

平安製作所は金属プレス加工を用いた自動車のエンジン部品やトランスミッション部品を主要製品とし、金型設計・製作から溶接・組み立て、塗装まで一貫して行う。納入先の98%が自動車関連で、業界の技術革新を支えている。1939年に京都市内で創業、03年に本社と工場を滋賀県高島市に集約した。



荒木 社長

一方京都では、07年に事務所を開設し、自社開発の製品を展示して顧客との打ち合わせに利用している。場所が手狭なうへ「利便性を考慮して」(荒木邦彦社長)、11年に京都リサーチパーク(京都市下京区)内に京都開発センターを開設。同社の技術のアピールや情報収集の拠点として活用している。顧客は同センターでサンプル確認など商談ができる。

平安製作所

同社は90年ごろからV A(価値分析)活動を活発化し、新工法の開発を積極的に進めてきた。顧客から渡された図面に自社で手を加えることもあり、こうした自社開発部品は受注全体の60%にのぼるといふ。

例えば、プレスによる

コスト低減へ新工法追求

歯形成形を用いたドライブプレートを開発。切削歯車とプレスプレートを溶接する従来工法を、1枚の鋼板で成形すること

で低コストと軽量化を実現し、大手自動車メーカーに採用されている。また、積層構造の採用でエンジン始動時のかみ合いの騒音を軽減したギアを追求に余念がない。新たに組み立てられているのが、

「日本国内でモノづく

の開発や量産に生かすなど生産体制も強化する。15年3月期には、12年3月期に約58億円の売り上げを約68億円に引き上げる計画だ。

▽社長 荒木邦彦氏▽本社 滋賀県高島市▽京都開発センター 京都市下京区中堂寺南町134 A STEMBIL、075・322・1516▽従業員 180人▽事業 自動車部品を中心とする金属プレス・溶接・組み立てなどの加工▽創業 39年(昭14)7月(隔週木曜日に掲載)



歯形成形などの高度なプレス加工に加え溶接・精密加工技術で顧客ニーズにこたえられる

を用いた板鍛造だ。同じ部品をつくる場合でも、焼結と比べて約40%コストを低減できるという。また、深絞りや折り返しなどの技術を活用して材料をできる限り有効利用する工法も新たに開発し、自動車メーカーに提案を始めている。

▽社長 荒木邦彦氏▽本社 滋賀県高島市▽京都開発センター 京都市下京区中堂寺南町134 A STEMBIL、075・322・1516▽従業員 180人▽事業 自動車部品を中心とする金属プレス・溶接・組み立てなどの加工▽創業 39年(昭14)7月(隔週木曜日に掲載)